

# 1月の贈与金と受贈金

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

新年を迎え、皆様はいかがお過ごしでしょうか。  
 親戚が集まって、お正月を迎えた御家庭も多いのではないかと思います。そこで今回は、お年玉などを含む贈与金と受贈金についてみてみましょう。

## 1月に多い贈与金と受贈金注

平成18～20年平均の贈与金と受贈金の1世帯当たり金額を月別にみると、贈与金、受贈金ともに1年のうちで1月が最も多くなっており、贈与金は1か月当たり平均支出金額の約1.9倍、受贈金は約2.1倍となっています。続いて、贈与金、受贈金ともに3月の金額が多くなっており、卒業、入学などの時期にも増加する傾向があることがわかります（図1）。

注)受贈金は、二人以上の世帯のうち勤労者世帯の結果。以下同じ。

## 1月の贈与金と受贈金は、ともに減少

次に、1月の贈与金と受贈金の1世帯当たり金額について、平成元年から21年までの推移をみると、贈与金は平成元年から5年までは増加していましたが、その後は減少傾向となっています。一方、受贈金も平成5年をピークに、ゆるやかな減少傾向となっています（図2）。

## 1月に贈与金が多い70歳以上の世帯

最後に、1世帯当たりの贈与金と受贈金の金額を世帯主の年齢階級別にみると、贈与金は年齢が高くなるほど多く、受贈金は年齢が低くなるほど多くなる傾向があります。

この傾向は1月に顕著に見られ、70歳以上の世帯の1月の贈与金の金額は29歳以下の世帯の約4.5倍となっています。一方で、29歳以下の世帯の1月の受贈金の金額は70歳以上の世帯の約4.3倍となっています。

このことから、高齢者の世代から若年者の世代へのお年玉などを含むお金の贈与は1月に多く行われている状況がうかがえます（図3）。

